

株主の皆様へ

# 第56期 報 告 書

平成31年4月1日～令和2年3月31日



シナノキンバイ(室堂平)



## 株主の皆様へ

代表取締役社長 見角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第56期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当期のわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善により、個人消費や設備投資が増加傾向で推移し、内需を中心に緩やかな回復が続きました。一方で、消費税率引き上げ後の消費動向や米中通商問題の世界経済への影響など、依然として不透明な状況で推移しました。

観光業界におきましては、自然災害の発生や外交問題等のマイナス要因はあったものの、国の観光立国推進事業の取り組みに加え、ラグビーワールドカップ日本大会開催があり、訪日客が過去最高の3,188万人に達しました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前期同様、4月10日に富山側の立山駅～弥陀ヶ原間の営業を再開し、全線開通初日の4月15日は荒天により昨年に引き続き、通り抜けが出来ませんでしたが、翌日には立山駅～信濃大町駅間が全線で営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、国内客につきましては、春先の令和改元に伴う大型連休となったゴールデンウィークが好天に恵まれ、団体個人客ともに前年を上回りましたが、訪日客は同期間の宿泊・航空運賃上昇などが影響し、前年を下回りました。その後、昨年より3週間も遅い梅雨明けや、お盆の台風上陸によって夏期の旅客が減少しました。紅葉期につきましても、大型台風19号によって、首都圏からの大動脈である北陸新幹線が約2週間に亘り一部区間が不通になったこと等が影響し、入り込み客数を大きく落とすこととなりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計883千人（前期比90%、98千人減）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが425千人（前期比93%）、大町入り込みが458千人（前期比88%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客については、前年の関電トンネルトロリーバスのラストイヤーを謳った各種施策による客数増加の反動により、大町入り込み客数が大きく前期を下回りました。この結果、国内旅客全体の入り込み人員が643千人（前期比90%、72千人減）となりました。

一方、訪日旅客においては、香港、タイ、中国が順調に伸びましたが、近年復活してきた韓国が前年6割と大きく落ち込み、訪日旅客全体では、240千人（前期比90%、26千人減）となりました。

次頁の「決算概要」に記載のとおり、当期につきましては、当期純損失計上のやむなきに至りましたため、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当金につきましては、無配とさせていただきます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

近年、局地的な大雨が発生するなど地球温暖化による気候変動の影響により、航空機の欠航や鉄道の運休といった交通障害の被害が発生し、立山黒部アルペンルートも多大な影響をうけております。

加えて、今般の国内外における新型コロナウイルス感染拡大によって人の移動が制限され、観光業全体が深刻な事態に陥りました。当社では春の「雪の大谷ウォークイベント」を中止、さらに国内全域を対象とした緊急事態宣言が発令されたことを踏まえて、4月15日の全線開通後間もない4月18日から、立山駅～黒部湖間の営業を、期間を限定して休止することといたしました。

当面予断を許さない状況が続くことが予想されますが、終息後を見据え効率的な事業運営に取り組み、経営基盤の安定を図ってまいります。

新型コロナウイルス感染が拡大し、終息時期の見通しが立たない中、当社は、社長を本部長とし、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置いたしました。設置の目的は、グループ全体の事業運営の管理強化と役職員の感染予防対策などに対応する体制づくりを目指しております。

令和2年度の春期営業におきましては、売上高の大幅な減少が見込まれております。そうした中、業務の省力化やコスト削減などの事業運営の効率化に努めてまいります。具体的には旅客の減少に伴い構内販売店舗を縮小し、美女平駅と大観峰駅の構内売店並びにレストラン黒部平につきまして令和2年度の営業を休止することといたしました。

また、当社関連会社におきましては、立山観光ターミナル株式会社が運営いたします弥陀ヶ原ホテルと宇奈月国際ホテルにつきましても令和2年度の営業を休止することとし、立山黒部サービス株式会社の手荷物回送サービスにつきましても令和2年度の営業を休止することといたしました。

当社といたしましては、当面の間は、運輸事業に集中することとし、効率的な事業運営を目指してまいります。

なお、新型コロナウイルス感染症の終息後につきましては、富山県、関係市町村、関係機関と共同にて、JR各社や各地区の旅行会社のご協力をいただきながら、誘客に努めてまいります。

立山黒部アルペンルートは、令和3年に全線開業50周年を迎えますが、これからも佐伯宗義初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、次の50年も多くの皆様に喜ばれますよう、積極的な営業活動と、安全・安心な立山黒部アルペンルートの構築と、自然環境保全を役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 決算概要 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

## 【単体】

### 損益概要

(単位:百万円)

	令和元年度	前期差	平成30年度
	営業収益	4,197	△354
営業費	4,377	△132	4,509
営業利益(△は損失)	△180	△222	42
経常利益(△は損失)	△167	△227	60
当期純利益(△は損失)	△1,304	△1,342	38

### 資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和元年度	前期差	平成30年度
	資産の部	9,906	△1,398
流動資産	1,638	59	1,580
固定資産	8,267	△1,457	9,724
負債の部	4,280	△91	4,371
流動負債	1,051	△29	1,081
固定負債	3,229	△61	3,290
純資産の部	5,625	△1,308	6,933

当期の営業収益は、41億97百万円（前期比92%）となりました。一方、営業費は、経営全般にわたる効率化に努めましたが、人件費および広告宣伝費、修繕費等の物件経費は減少したものの、「立山弥陀ヶ原地区商用電源供給設備整備工事」に伴い、撤去時期が明確になった弥陀ヶ原ホテル自家発電機装置の耐用年数を短縮したこと等により減価償却費が増加し、営業費合計は43億77百万円（前期比97%）となりました。

これに営業外収益49百万円、営業外費用35百万円を加減した当期の経常損失は1億67百万円となり、さらに特別利益5百万円、遊休地等の減損損失他による特別損失12億65百万円を加減した税引前当期純損失は14億26百万円となり法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、13億4百万円の当期純損失を計上することとなりました。

詳細の情報はホームページにてご確認ください。

立山黒部貫光株式会社ホームページ <https://tkk.alpen-route.co.jp>

【連結】 連結子会社：立山貫光ターミナル㈱、立山黒部サービス㈱

損益概要

(単位:百万円)

	令和元年度	前期差	平成30年度
	営業収益	6,606	△668
営業費	6,888	△332	7,220
営業利益 (△は損失)	△282	△336	54
経常利益 (△は損失)	△265	△338	73
親会社株主に帰属する 当期純利益 (△は損失)	△1,356	△1,414	58

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和元年度	前期差	平成30年度
	資産の部	11,241	△1,339
流動資産	2,403	54	2,349
固定資産	8,838	△1,392	10,230
負債の部	5,329	61	5,268
流動負債	1,321	1	1,320
固定負債	4,008	60	3,948
純資産の部	5,911	△1,400	7,311

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貫光ターミナル㈱	立山黒部サービス㈱
営業収益	2,629	262
営業費	2,756	255
営業利益 (△は損失)	△126	6
経常利益 (△は損失)	△118	8
当期純利益 (△は損失)	△96	5



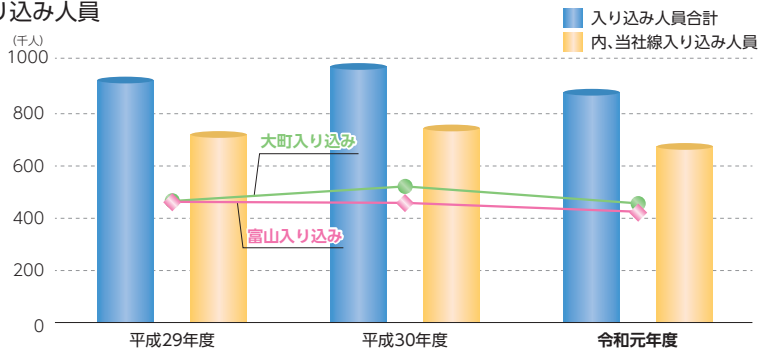
※立山貫光ターミナル㈱は、ホテル立山、弥陀ヶ原ホテル、宇奈月国際ホテルを経営しております。

※立山黒部サービス㈱は本体事業を補完し、食品加工、手荷物回送等の事業を行っております。

# 営業概況

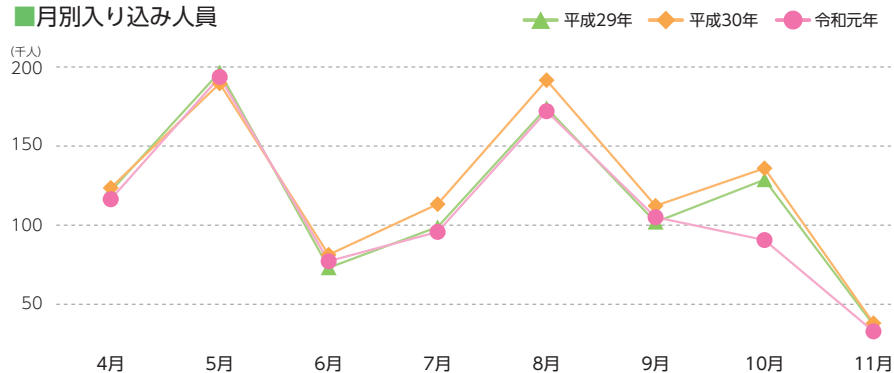
令和元年度の入り込み人員は、88万3千人（前期比90%、98千人減）で、内訳では、富山入り込みが42万5千人（前期比93%）、大町入り込みが45万8千人（前期比88%）となりました。主な営業成績は、下記のとおりです。

## ■入り込み人員



	平成29年度	平成30年度	令和元年度
富山入り込み	463	459	425
大町入り込み	466	522	458
入り込み人員合計	929	981	883
内、当社線入り込み人員	720	745	675

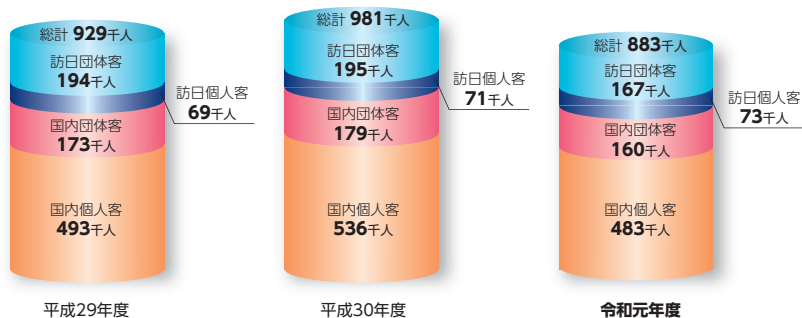
## ■月別入り込み人員



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
平成29年	121	194	74	99	172	102	128	39	929
平成30年	123	187	82	113	189	112	135	40	981
令和元年	116	191	79	96	170	105	91	35	883

訪日客は、春先の令和改元に伴う大型連休期間の宿泊・航空運賃上昇などの影響により低調に推移し、8月以降は韓国からの集客が大幅に減少し、台湾、香港、中国等でカバーするに至らず、結果前年を下回り、24万人となりました。なお、中国からの旅客は、富山県とのPR等の効果で徐々に増加傾向にあります。

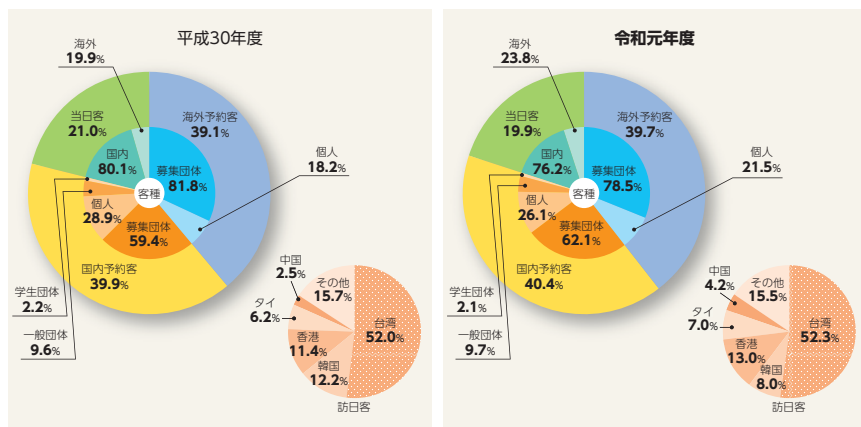
## ■客種別入り込み人員



(単位：千人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入り込み人員合計	929	981	883
訪日団体客	194	195	167
訪日個人客	69	71	73
国内団体客	173	179	160
国内個人客	493	536	483

## ■地域別客種別シェア ※堂室～黒部湖間利用人員より算出





## 立山ケーブルカー 客車用台枠を更新

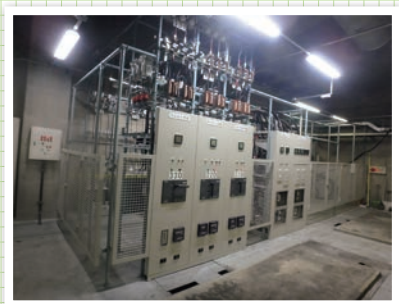
立山ケーブルカーは、平成15年に客車をリニューアルしてから、17年が経過いたしましたので、今後使用劣化による支障が発生しない様、客車の台枠を更新したものです。補修・補強にあたり、現地では十分な工事が行えず、更なる安全運行を図るため、客車及び台枠をメーカー工場（大阪府）に運搬し、台枠部の更新工事を、令和元年12月から令和2年3月にかけて実施いたしました。



台枠更新後の客車を、立山駅へ搬入

## 弥陀ヶ原ホテルの商用電源需給を開始

富山県が提唱した『立山黒部』世界ブランド化推進会議の一環として、長年の夢であった室堂から弥陀ヶ原地区に商用電源が供給されることが決定し、周辺関係者と共同で事業を行うため、弥陀ヶ原地区電気利用組合が設立されました。令和元年度に弥陀ヶ原ホテルの商用電源需給のための電気設備等の設置工事が完了し、令和2年4月1日から需給開始となりました。



弥陀ヶ原ホテル内 商用電源供給設備



# 会社概要 (令和2年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町一丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、  
売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 8,973,208株 (自己株式318,460株を除く)
- 株主数 1,428名
- 役員 (令和2年6月26日現在)

代表取締役社長	見角 要
専務取締役	中川 修 (営業推進部担当)
常務取締役	高江 均 (技術環境部長)
常務取締役	中村 直幸 (経理部長)
社外取締役	石井 隆一
社外取締役	永原 功
社外取締役	庵 栄伸
社外取締役	宮本 信之
社外取締役	辻川 徹
社外取締役	森 雅志
社外取締役	牛越 徹
社外取締役	貞松 孝洋
取締役	石野 一美 (立山貫光ターミナル(株)常務取締役ホテル営業部長)
取締役	秋元 一秀 (経営企画室長兼総務部長)
取締役	大谷 真一 (運輸事業部長兼物販事業部長)
取締役	川高 健裕 (立山貫光ターミナル(株)取締役宇奈月国際ホテル支配人)
常勤監査役	川嶋 芳明
社外監査役	舟橋 貴之
社外監査役	中田 邦彦

# 株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
  - 株主優待券 2月末日
  - 定時株主総会の議決権 3月31日
  - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人  
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号  
日本証券代行株式会社
- 同取次場所  
日本証券代行株式会社 支店  
三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先  
〒168-8620  
東京都杉並区和泉2-8-4  
日本証券代行株式会社 代理人部  
0120-707-843 (フリーダイヤル)

## 単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

### <単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

### <単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

## 株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			宿泊ご優待割引券	
	種 類	通用区間	発行枚数	ホテル立山 弥陀ヶ原ホテル	宇奈月国際ホテル
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	3枚	2枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	1枚 2枚	2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	4枚	2枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	2枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	10枚	4枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	20枚	4枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券(片道) 優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	30枚 1枚	6枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

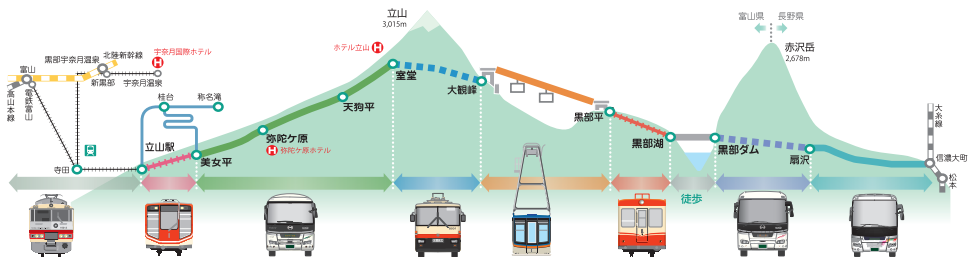
### ～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、左記日本証券代行㈱ 代理人部までお問い合わせください。



## 立山黒部アルペンルートのご案内



乗物	電車 電鉄富山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル トロリーバス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル 電気バス	路線バス
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.8km	6.1km (16分)	18km (40分)
運賃 (な)	片道	1,230円	730円	1,740円	2,200円	1,320円	870円	1,570円	1,390円
	往復	2,460円	1,460円	3,480円	3,300円	1,980円	1,320円	2,610円	2,500円

### 営業推進部

〒930-0849富山県富山市稲荷園町2-3-4  
国内営業センター 海外営業センター WEB・PRセンター  
ガイド&インフォメーションセンター  
☎(076)432-2819 FAX(076)442-3431

### 東日本営業所

〒102-0081東京都千代田区四番町4-9東越伯鷹ビル1階  
☎(03)3262-7028 FAX(03)3265-5285

### 西日本営業所

〒550-0004大阪府大阪市西区靱本町1-9-15近畿富山会館4階  
☎(06)6445-0359 FAX(06)6445-0398

### 大町営業所

〒398-0002長野県大町市大町3226-2  
☎(0261)22-0198 FAX(0261)23-2967

### グループのホテル



#### ホテル立山

〒930-1414富山県中新川郡立山町芦峰寺室堂  
☎(076)463-3345 FAX(076)463-3348



#### 弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412富山県中新川郡立山町芦峰寺弥陀ヶ原  
☎(076)442-2222 FAX(076)442-2242



#### 宇奈月国際ホテル

〒938-0282富山県黒部市宇奈月温泉7-26  
☎(0765)62-1236 FAX(0765)62-1808

● 立山黒部アルペンルートオフィシャルサイト  
<https://www.alpen-route.com>

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社  
〒930-8558富山県富山市桜町1-1-36  
☎(076)441-3331(代表) FAX(076)433-1185

(自然環境保護のため、環境にやさしい「水なし印刷」  
「植物性大豆油インキ」を使用しております。)

